チャイルド・エイド・インターナショナル 2020

報告書

NPO リトル・クリエイターズ

〒107-0062 東京都港区南青山 2-2-15 ウィン青山 1403
Email. contact@littlecreators.jp
URL. www.littlecreators.jp

リトル・クリエイターズの活動について

リトル・クリエイターズでは、恵まれない環境に育つ子ども、特に児童養護施設で暮らさざるを得ない子どもを対象に、自分を表現する機会、いろいろな人と出会い交流する機会を提供している。彼らが見えない障害を乗り越えて社会を生きていくための、夢や智慧や力を育む手助けをしたいとの思いからで、その手段としてアート（表現活動）を使っている。

日々の表現活動に加え発表の場を得ることで、彼らは知恵や広い視野そして自信を少しずつ身につけているようだ。子どもが今おかれている環境から巣立つときに、私たちとの経験が役立てばと、手弁当での活動が 2007 年から続いている。（NPO 設立は 2009 年）10 周年をすぎて、かつて私たちの活動に参加した子どもが、今度は活動を支える側で手伝いをしてくれるようもなった。

でも本当は、このような子どもがいない社会になるように、愚直にできることを続けて行きたい。

主な事業

- 児童養護施設で美術や音楽のワークショップを開催。
- 児童養護施設の子ども、音楽的才能がある子ども、海外の子供が出演する『チャイルド・エイド・アジア』コンサートや『Friendship コンサート』の開催。
- アジアを中心とした子どもの国際交流、短期・長期留学支援。
- シンガポール、マレーシア、インドネシア、フィリピンなどの同じ志を持つ組織とともに、助け合いの活動の輪を広げるべくネットワーク作りを推進。

リーチアウト

ワークショップ参加者数	延べ約 2,000 人	
コンサート参加者数	延べ 1,169 人	
海外派遣者数	延べ 74 人	（2020 年 8 月現在）

チャイルド・エイド・インターナショナル 2020

リトル・クリエイターズでは、2011 年から『チャイルド・エイド・アジア』コンサートを 5 回開催してきた。このコンサートは、出演者、舞台や会場を飾る美術作品提供者は全て子どもで、オーディションを勝ち抜いた音楽的才能に恵まれた子ども、海外から参加する子ども、日本の児童養護施設の子どもで構成される。発表される楽曲にソロ演奏はなくコラボレーションばかりで、様々な環境で暮らす子どもが力を合わせて曲を作り上げていく。収益金は、生活のハンディから音楽や美術など表現活動に触れる機会が少ない子どもを対象にしたワークショップや学習、留学の費用などに充てられる。子どもが子どもを助ける仕組みのコンサートである。

2020 年はオリンピック・イヤーにあたることから、五大陸から出演者を招聘しようと 1 年半をかけて準備を進め、タイトルも『チャイルド・エイド・インターナショナル』とした。1 月には国内のオーディションも行い海外五大陸からの出演者も決定したが、2 月以降各国の新型コロナウイルス感染状況をみて、出演を辞退する子どもが増えた。こどもの日である 5 月 5 日の開演を目指したものの、残念ながら 4 月 1 日にコンサートを中止した。

<u>概要</u>
タイトル：
チャイルド・エイド・インターナショナル 2020
日　　時：2020 年 5 月 5 日（祝）16:30
会　　場：サントリーホール　大ホール
特別協賛：Suntory Beverage & Food Asia
助　　成：一般社団法人東京倶楽部
音楽監督：八幡茂　　構成・台本：宮本泉
海外プロデューサー：(シンガポール) Aminah Hussien, Peggy Leong, Colin Goh / (マレーシア) Ralph Lim / (インドネシア) Ferdinand Marsa / (フィリピン) Atek Jacinto / (タイ) May Parichat / (韓国) Soohyun Paik / (スリランカ) Wishwani Amarakoon / (メキシコ) Susana Jano / (南アフリカ) Gebremariam Gerim / (オーストラリア) Weili Ma / (スイス) 北村明日人
宣伝写真：池上直哉　髙橋正美　　宣伝美術：本永惠子
製作協力：間杉直子
協　　力：東京スクールオブミュージック＆ダンス / CHIJ ケロック小学校（シンガポール） / ユ・ネン小学校（シンガポール）

チャイルド・エイド・インターナショナル 2020 バーチャル

リトル・クリエイターズではサントリーホールに集ってのライブ・コンサートは諦めたものの、参加予定だった子どもからの同世代の困っている子どもを助けたいという声、舞台に立つことができず本当に残念という声を受けて、何か代わりにできることがないかと模索した。一方で、新型コロナウイルスの感染が拡がる中、児童養護施設などでは十分な ICT 環境が整っておらず、オンライン授業どころか宿題すら受け取れにくくなっているとの報告を受けていた。

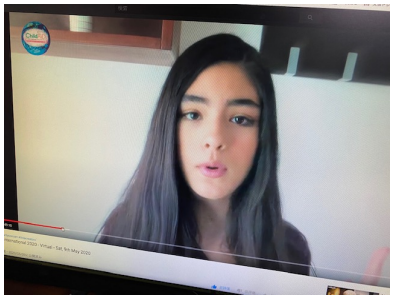
そこで『チャイルド・エイ インターナショナル』に出演が決まっていた子どもに声をかけ、恵まれない環境の子どもに IT 環境をとどけようと、参加が可能な子どもでバーチャル・コンサートを開催することにした。ライブ・コンサートでは数カ国の子どもが協力して 1 曲作り上げるが、本来予定していたライブ・コンサートの日程とあまり遠くない日に配信したいこともあり、参加を決めた子どもが自宅で携帯電話を使ってソロ演奏を録画し、その映像をつないで『チャイルド・エイド・インターナショナル 2020 ーバーチャル』（協賛：Suntory Beverage & Food Asia）とした。

2019 年がリトル・クリエイターズの 10 周年であったことから、『チャイルド・エイド・アジア』のテーマ曲「輝く明日へ」（作曲：八幡茂　作詞：宮本泉　英語詩：Brian Magruder）を録音し、ライブ・コンサートでお披露目をする予定であったので、それもバーチャル・コンサートのフィナーレとして取り入れた。録音は、過去にコンサートに出演した日本の子どもが日本語部分を、シンガポールの CHIJ ケロック小学校合唱団が英語部分を吹き込んだ。同じく 10 周年イベントとしてシンガポールのユ・ネン小学校との「橋」をテーマにした絵葉書交流が進行中だったので、「輝く明日へ」のビジュアルとして絵葉書の紹介も行った。

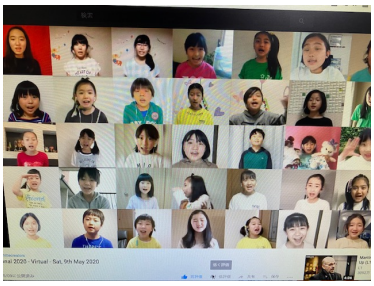
<u>概要</u>
タイトル：チャイルド・エイド・インターナショナル 2020 – バーチャル
配　　信：2020 年 5 月 9 日 16:00～6 月 6 日 16:00
チャンネル：リトル・クリエイターズ YouTube チャンネル
協　　賛：Suntory Beverage & Food Asia
テクニカル・チーム：(インドネシア) Ferdinand Marsa / (シンガポール)Idwan Nur
イメージ・デザイン：本永惠子

コンサート・プログラム

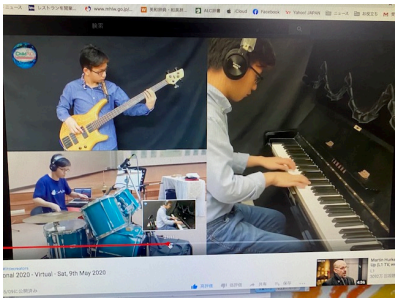
オープニング：「輝く明日へ」抜粋
　　チャイルド・エイド・アジア OG,OB X CHIJ ケロック小学校合唱団（シンガポール）
メッセージ
　　Shariffah Rashidah Binte Syed Abdul Rahman Al-Yahya（シンガポール）
　　小助川由汰
「Ave Maria」
　　菅野真奈（フルート）
「We Will Rock You」
　　Tsela Kagina Phetogo Molepo　（ヴォーカル、南アフリカ）
「風笛」 森山ひかる（オーボエ）
「Dance Monkey」
　　Michelle Lanz（ヴォーカル、メキシコ）



「Sonata for Violin Solo No.1 “Presto”」
　　崎元杏（バイオリン）
「Tomorrow」
　　Raina Gumay（ヴォーカル、インドネシア）
「Intermezzo de “Carmen”」
　　鈴木義了（フルート）
「Golliwog’s Jazz」
　　Daniel Bryan Siew（ドラム＆ピアノ＆ギター、マレーシア）
「涙そうそう」
　　山本栞路（チェロ）



「Let’s Go, The Little Music」
　　リトル・ミュージカル（合唱）
「Chopin Mazurka Op.67-2」
　　岩船謙惺（ピアノ）
「世界がひとつになるまで」
　　野村麻結（ヴォーカル）
「Repentirs (Regrets), No. 5 from Musiques d’enfants, Op.65」
　　Kate - Alisa Wichayachakorn（ピアノ、タイ）



「Wrecking Ball」
　　Jian Ra（ヴォーカル、韓国）
「Excerpt from ”Wedding Day”」
　　Anagi Gunasekera（ピアノ、スリランカ）
「U & I」板垣結衣（ヴォーカル）
フィナーレ：「輝く明日へ」
　　歌　チャイルド・エイド・アジア OG,OB X CHIJ ケロック小学校合唱団（シンガポール）
　　絵　ユ・ネン小学校　X リトル・クリエイターズ（ふくしまむつき　はたけやまゆづき
　　はたけやまみづき　小西楓香　さくらいえいしん
　　さくらいとくまる　さくらいかほ　中山優菜）

参加者の皆様のご協力に心から感謝申し上げます。どうも有難うございます。

ファンド・レイジング

新型コロナウイルスの感染拡大による教育格差の広がりは世界各国で見受けられ、ICT 環境を有するかそうでないかが、子どもの教育を受ける権利を直接的に脅かしている。そこで、リトル・クリエイターズと同じ志を持って『チャイルド・エイド・アジア』を各国で開催している非営利団体 The RICE Co., Ltd.（シンガポール）、NPO The Smiles（マレーシア）, Yayasan Asa Sehati Indonesia（インドネシア）とともに、『チャイルド・エイド・インターナショナル 2020-バーチャル』にあわせて、視聴者に寄附を呼びかけた。

集まった寄附金は合計で 600,481 円。これを四カ国で分けて、各国の恵まれない環境の子どもの ICT 環境を整えるための資金として 3 団体に託し、209,881 円をリトル・クリエイターズでお預かりした（詳細は、後述の収支報告参照）。リトル・クリエイターズは、これまでに 3 つの児童養護施設で活動をしてきているが、今回は神奈川県にある聖園子供の家の ICT 環境を整えることを目標とした。聖園子供の家では、小学生を対象に、毎月第三日曜日に創作ワークショップを開催している。（今年 3 月から 7 月は、新型コロナウイルスの感染拡大により中止。）

リトル・クリエイターズでは寄附金のお願いに加え、新品あるいは中古の PC やタブレットの寄附も募理、その内 25 台を聖園子供の家に届けた。

寄附金をお寄せくださった皆様（順不同）

木村葉子様	森山ひかる様	鈴木優子様	ガブレマリアン・タツヤ様
Clara Lim 様	山本栞路様	藤代亜弓様	春野川幸来様
春原美生様	大嶋奈緒美様	鈴木雪江様	平林潤様
原隆子様	河端彩様	宮脇潤治様	小山内香苗様
山川亜紀子様	工藤幸恵様	吾妻真優様	Jonson Nobuko 様
荒川範子様	ルイス陽子様	渡辺幹夫様	Yukthi Gunasekera 様
西村光博様	工藤貴子様	鯨エマ様	Soohyun Paik 様
野村眞守美様	宮本泉様	Jo Pompan 様	宇田川千恵様
堤尚広様	Atek Jacinto 様	ほかの皆様	

PC、タブレットなどをお寄せくださった皆様（順不同）

ヤマハ発動機株式会社様

黒田裕子様	川島浩之様	徳成武勇様	ほかの皆様

この場をかりて、ご寄附くださった皆様に心より御礼申し上げます。有難うございます。

聖園子供の家と ICT 環境

リトル・クリエイターズが 2012 年から毎月 1 回のペースで創作ワークショップを続けている児童養護施設が、神奈川県藤沢市にある聖園子供の家（社会福祉法人みその https://www.misono-f.com/child/kodomonoie/）である。

聖園子供の家には、ヨハネホームとクララホーム（旧ルチアホーム）の２館があり、それぞれに 2020 年 8 月現在 40 人と 14 人の子ども（原則小学 1 年生から高校卒業まで）が生活している。これまでは子どもが使える PC が 1 台しかなく、この状況を改善しなければと、今回『チャイルド・エイド・インターナショナル 2020-バーチャル』で寄付を募ることにした。老朽化が進んでいるクララホームは、現在、修道会の支援で建て替えをすることが検討されているため、今回はヨハネホームの Wi-Fi 設備をまず整えることをリトル・クリエイターズの目標においた。

2020 年 9 月に工事(LAN ケーブル敷設及びアクセスポイント設置作業)が行われ、これによりヨハネホーム全館で PC などを使用することができるようになった。この工事費用 575,300 円（税込）を皆様からの寄附金、協賛金から支払った。10 月には、子どもが施設内でどのように PC、タブレットを使っていくか、そのルール作りが行われた。また、ご寄附いただいた PC、タブレットは、全て初期化されていたため必要なソフトのインストールなどが行われた。11 月現在、PC、タブレットは各部屋に 1 台〜2 台ずつ置き、子どもが決められたルールの中で自由に使える環境がようやく整った。そして、特に高校生がオンライン授業や学校課題用に優先的に使えるように配慮されているとのことである。

ヨハネホーム天井に設置されたルーター。右の壁紙は以前にワークショップで子どもたちが作成したポスター。

早速、PC に向かう子どもたち

収支報告

『チャイルド・エイド・インターナショナル 2020-バーチャル』における収支報告は、以下の通り。

（収入）

協賛金（Suntory Beverage & Food）	764,700 円
寄附金総額	600,481 円
合計	1,365,181 円

（支出）

The RICE Co., Ltd.（シンガポール）への寄附金	150,200 円
NPO The Smiles（マレーシア）への寄附金	90,200 円
（8 月にマレーシア主催で日本人も参加して同等のチャリティ・コンサート ChildAid Asia @ KL Virtual Concert が開催されたので、寄附金を一部辞退。）	
Yayasan Asa Sehati（インドネシア）への寄附金	150,200 円
コンサート製作費（編集費、宣材費など）	367,905 円
聖園子供の家工事費	575,300 円
合計	1,333,805 円
残金	31,376 円

残金は、クリスマスに企画しているチャリティ・コンサートの製作費に充てます。

リトル・クリエイターズこれからの活動

新型コロナウイルス の感染拡大により、望むと望まざるとにかかわらず活動の形は変わっていかなければいけない。その意味ではリトル・クリエイターズもまだまだ模索中ではあるが、変わらずに子どもの声を聞いて子どもが必要とするものを把握し、寄り添っていきたいと考えている。また足元だけで意義ある活動が何かを考えるのではなく、常に海外の仲間とも意見を交わし助け合いながら、広い視野で活動に取り組んでいきたい。

現在、計画している活動は、以下の通り。

11 月 22 日	5 カ国共同クリスマス・チャリティ・コンサート配信開始（YouTube） (5 カ国は、シンガポール、マレーシア、インドネシア、フィリピンそして日本)
12 月 24 日	10 周年記念事業「輝く明日へ」収録映像発表（リトル・クリエイターズ URL）
2020 年冬	シンガポールのユ・ネン小学校とバーチャル展覧会「橋」開催
2021 年春	シンガポールのリトル・アーツ・アカデミーとデジタル・アート交流会開催

今後とも、どうぞ変わらぬご支援、ご協力をお願い申し上げます。

Little Creators

（付録）
これまでに出会った子どもからのメッセージ
～リトル・クリエイターズでの体験

自分の将来の夢に自信が持て目指そう、と言う前向きな姿勢になることができました。
- 西村花音　CAA2018

自分の中で音楽に対するアプローチが変わった。　- 加藤優佳　FC2015

人の繋がりや仲間の大切さを経験しました。今でも、また会いたいから頑張れることも沢山あります。
- 堀内心優彩　CAA2018

音楽で、言葉はなくてもわかりあえる事を知りました。　– 藤田ひとみ　FC2017

初めて海外に行き、それまでの窮屈で閉鎖的な感覚から自由に自分を表現して人に見てもらうとことができました。また、それまで思っていたセカイはもっともっと広くて、なにか自分が肯定されたような開放された感覚になりました。
– 2009 年国際こどもアートフェスティバル参加者

初めて海外に行って、全てが新鮮で人生を大きく変えるいい影響を受けました。（中略）クルーとしてお手伝いさせて頂いてからは、違う言語違う文化を持つ子どもたちが、努力して一つのものを共に作り上げる達成感を味わい、涙が止まらないほどの感銘を受けました。
– 2008 年国際こどもアートフェスティバル参加者

普通に生活していたら出来なかった経験や、出会わなかった人たちに出会った。また海外の同い年くらいの子たちとコミュニケーションをとる事で、日本の子供達との雰囲気の違いや表情の豊かさなど、子供ながらに刺激になった。
– 2009 年国際こどもアートフェスティバル参加者

最初参加しているうちはなんとなくやっていたものの、一緒に仲間たちとステージに立っていることにだんだんと実感や素晴らしさを感じるようになり、司会として大きな会場で大人数の前に立った時は緊張で押しつぶされそうでした。ですが、仲間たちの励ましや頑張っている姿を見て自分を鼓舞する気持ちが湧き上がりました。
司会をした時の台本・パンフレットを今でも大事に持っています。シンガポールに行った時にあの感動、初めて見る景色に驚いていた時の気持ち、今でも忘れられません。
– 2010 年国際こどもアートフェスティバル参加者　CAA2011, 2013, 2014, FC2015

＊CAA=ChildAid Asia. FC=Friendship Concert

これまでに出会った子どもからのメッセージ
～リトル・クリエイターズでの体験

I would love to be informed of future opportunities to volunteer.
-Jonathan, CAA2014

Little Creators motivated me more to play and perform music.
-Marc Neo Wei Yang, workshops in Singapore 2014

Blessed & thankful, it was an eye opening experience!
-Nur Afiqah Rapee, CAA2013

Little Creators were the first to bring me abroad which has always been my ultimate dream to perform outside the country.
-Maria Giedie Maureen Laroco, CAA2016

I would like to contribute more and get to know more people.
-Melati Binte Jahari, CAA2013

I'd like to host another ChildAid show too.
-Putri Nurinsyirah Bte Muhammad, CAA2016

I made lots of new friends and learned many things about various cultures.
-Guru Simmar, FC2015

I would want to give back what has been given to me.
-Syarul Haffyan, workshops in Singapore 2014

I felt happy as I get to learn new art skills on the process of doing the artwork for the event. -Tan Qi Huan, workshops in Singapore 2014

It was more than inspiring to see and perform with great young artists.
-Mishael D. Romano, CAA2018

In events like these, which are beaming with young talent from all over the world, I think that we are challenged to grow beyond our performance and instead we are provoked to listen. We listen to unfamiliar sounds, rare timbres, new musical motifs and different thought processes. -Ananya Diddapur, CAA2014

It felt really amazing to be part of an organization that helps others while doing what I love! -Ong Yi Ting, CAA2014